

2022 年度（令和 4 年度）

事業報告

自 2022 年（令和 4 年）4 月 1 日

至 2023 年（令和 5 年）3 月 31 日



一般財団法人 日本生物科学研究所
NIBS NIPPON INSTITUTE FOR BIOLOGICAL SCIENCE

1. 事業の概要と特筆すべき成果

2022年度は、事業計画に基づき産業動物の衛生問題対策、食の安全及び安心を確保する畜水産物の生産並びに伴侶動物の疾病予防と健康管理など、社会の要請に応じて貢献すべき事業分野の基礎的及び応用的研究を実施した。また、当所で蓄積されてきた研究成果及び技術は、日生研株式会社の諸活動並びに広く社会の産業動物の衛生問題及び環境を改善するための技術及び材料として活かされ、さらに病性鑑定並びに国内外関係者の研修又は講習会などに積極的に活用された。

2. 研究課題及び関連業務

2022年度の研究課題総数は14課題で、その内訳は、動物用生物学的製剤(ワクチン)として製造販売承認申請中の製品化課題のほか、製品化を目指す課題5題及び基礎研究課題9題、その他業務を実施した。

3. 病性鑑定

野外農場から病性鑑定依頼を受け入れ、検査部と研究部が連携して合計188件の病性鑑定(豚107件、鶏57件、その他24件)を実施し、報告書を提出した。

4. 抗体検査その他

- 1) 検査部では、会社製品販売促進の営業支援として、野外農場の抗体検査を、合計822件(豚408件、鶏414件)、検体数にして17,325検体(豚10,814検体、鶏6,511検体)実施した。
- 2) 日生研株式会社実験動物部のSPF鶏清浄化プロジェクトに研究員1名、研究アドバイザー2名及び技術員1名を参加させ、鶏貧血ウイルス(CAV)の抗体検査及びPCR検査を実施した。また当該プロジェクトの月1回の進捗会議に参加させた。

5. 研究成果の発表

- 1) 研究論文7報を国際英文誌(査読あり)に発表した。
- 2) 研究成果6題を学会及び研究会に発表した。

6. 学会及び研究会活動

- 1) 学会及び研究会

当所の研究員は、2022年4月1日現在、12学会に延べ48名、8研究会に延べ25名が所属している。また、賛助会員あるいは団体会員として17の学会又は研究会等

の運営に協力した。

2) 所内の研究会等

- (1) 研究課題の進捗状況及び成果を報告する第一研究会を開催した。
- (2) 外部から専門家を講師として招聘し、最新の研究成果をオンラインで講演していただいた。
- (3) 各研究課題について研究推進会議を定期的実施した。

7. 研修及び技術協力等

- 1) 研究員等の知識及び技術向上のため、所外で開催された学術集会、セミナー、シンポジウム、研究会等を Web 又は書面により延べ 25 名が受講した。
- 2) 延べ 1 機関へ 2 種類の研究材料を譲渡した。
- 3) 延べ 1 機関から微生物株 1 種類の研究材料を譲受した。

8. 講師等の派遣

5 機関で開催された業績発表会へ審査員を派遣した。

9. 外部組織・委員会・学会等の役員等

21 機関の外部組織、委員会又は学会等の理事、評議員、委員又は専門家としてそれらの運営等に協力した。

10. 学術広報

- 1) 日生研たよりを国内 733 か所、国外 22 か所、合計 755 か所の関係機関と個人へ 4 回、各回 890 部を無償で配布した。
- 2) 日生研たよりや事業内容の広報や情報公開を当所ウェブサイトで積極的に行った。

11. 特許

- 1) 国内の特許出願「プライマーセット、並びにプライマーセットを用いた核酸増幅方法、細菌の同定方法、及び罹患ブタの細菌感染診断方法」について特許査定された。

12. 日生研奨励賞及び日生研功労賞の授与

- 1) 日生研奨励賞
選考委員会からの授賞候補者推薦はなく、授与はなかった。

2) 日生研功労賞

選考委員会からの授賞候補者推薦はなく、授与はなかった。

13. 動物実験試験数

動物の愛護及び管理に関する法律等に基づき作成した「実験動物福祉並びに動物実験等及び実験動物生産の管理に関する規程」に沿い、19件の実験を行った。